

B-45 合織ワイグの消費特性に関する実験的研究

京都女大家政 北田純雄 松阪女短大 〇川本栄子

目的 トータルファッションの一部として認識されているワイグには、人毛のもの
と合織のものがある。そこで一般に利用の多い合織ワイグの消費者要求を検討し、
さらに実用的な機能面の特性を実験的に明らかにする方法を試み、その結果から製品
特性を把握し、消費者的立場で合織ワイグの問題点を究明しようとした。

方法 100回、200回、300回のブラッシング処理と、20℃、40℃で3回、6回、9回、
12回のシャンパー処理後のカール長の変化からカール保持率を求め、それによってカ
ールの耐久性を調べた。次にヘアの引き抜き抵抗を、万能引張り試験機を用いて、ワイ
グの手植え部分とミシン縫い部分とについて測定し、ヘアの本ジとの引き抜きや切断
の程度をその引張り記録線図から検討した。さらに、もつれさせたヘアのくし通りの
難易を、「つげ」のくしで万能引張り試験機にセットして実験し、同様に引張り記録線図
から検討し、シャンパーの繰り返し(0回、3回、6回、12回)による影響を調べた。

結果 ブラッシングとシャンパーの回数によるカール保持率の低下は少く、カ
ールの耐久性は良いと言える。シャンパー温度の高い場合は低下が速く、ヘアの織度の
小さいものは温度の影響を受けやすい。次に引き抜き抵抗性は、手植えのほうがミシ
ン縫いよりも引き抜きずに切断してしまう率(切断発生率)が高いが、いったん抜け
始めると抜けやすい。また、くし通り性は、シャンパー回数が増えると、処理油剤がと
れるのでヘアがまつれやすく、そのためくし通りが悪くなるが、オイルスプレー後の
くし通りは良くなる。